

の條斑は花の瓣にある條等が蜜腺のある處に向つて集つて居るのと同じ様に、他の動物の眼を此似せの頭部へ引きつける用をなす者であらうと考へた。即ち敵の攻撃を此部で受けて、大事な體を安全にする手段であらうと云ふ考へを記したのである。

處が丁度之と同じ様な意見がポールの「動物の色」にも出て居る。モルテンセンは然し此事には歸國後始めて氣がついたので、蝶を観察して居る時分には少しも知らなかつたと云ふ。

ポールの此意見に對しては「擬態、淘汰並ダーウィン主義」の著者ビーバーは附會の甚だしい者であると云ふ評を下し此シジミテフの後翅の突起は嘗て翅が今より大きかつた時の名残であらうと云つて居るが、モルテンセンは此説を駁して之こそ却つて附會であると云つて居る。動物學雜誌の讀者は果して何れの説に左袒せられるか。
(駒井卓)

●ノガンの捕獲

『鳥』と云へる雑誌に記されたる所によれば、本邦にてノガンを獲しことは極めて稀なるものゝ如ければ、古きことながら報じ置かんか。余は其當事餘りに注意せざりし爲年月を記せざりしが、何れ十數年前の事なりと思ふ、南佐久郡と北佐久郡の境なる中込原と稱する所、原とは云ふものゝ何れも圃地なるが、此邊にて獵師が一

(雜錄) ○ノガンの捕獲 ○蠶蛹に見出せる三種の壁蝨

羽の珍鳥を得し事あり。之れ即ちノガンなりき、岩村田町標本商古屋氏の手にて剝製せられ、今は中込村郵便局長植松某の有となれり。(大正七、一二、三記す)
(小山海太郎)

●蠶蛹に見出せる三種の壁蝨(續)

2. *Canestriniidae, gen et sp.?*

體長〇・七四三ミ、メ、體巾〇・五三三ミ、メ、淡黄色。Che-licera は短大従つて Rostrum は長さより巾の方廣し。

		Adult.				
		Cov.	T. oc.	em.	T. b.	Tar.
股節	I	1	1	2	2	4
股	II	1	1	3	2	7
	III	0	0	1	2	4
	IV	0	0	0	2	2

體表に Suture を見ず。表皮全體に幾分明なる細溝存す、紡錘形の内部に並行せる襞を有する Expulsory vesicle 存在し腹面に開口す。腹尾背に四本の剛毛後に向つて生じ體長に近し。肢上の各節毛數は表の如し、爪尖端に Sucker を有す。肢の長さは第三第四第二第一の肢順なり。

此の種は前記の種に交りて Adult の一個體を見出せり

3. *Gamasus s.p.*

體長一〇・一三ミ、メ、體巾〇・四二ミ、メ、體及肢乳白色、速に走る性あり、Chelicera 細長二節より成り尖端に齒三、可動齒節の齒二あり、Palpi は五節より成り最先端節下面基部にY狀に二又せる一毛在り。體背に四ヶ所 Suture 存在す第三第四肢間の位置にて背側に一對の Stigma 在